

学校運営協議会 会議実施報告書

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第8条第1項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

- 1 会議名 大垣特別支援学校 学校運営協議会 (第3回)
- 2 開催日時 令和7年3月4日(火) 10:00~12:00
- 3 開催場所 大垣特別支援学校 音楽室
- 4 参加者

会長	後藤 悦子	障がい者相談支援事業所ゆう	所長	
副会長	伊藤 三枝子	清流の国ぎふ女性防災士会	会長	
委員	岡田 浩	大垣共立銀行 江並支店	支店長	
	加藤 千恵美	大垣市くすのき苑	所長	
	酒井 千裕	大垣特別支援学校PTA	役員	
	西山 葉子	大垣公共職業安定所	統括職業指導官	
	国枝 由道	上笠自治会	会長	
	山口 敏文	大垣水都ライオンズクラブ	前会長	
	山田 晃嗣	情報科学芸術大学院大学	教授【欠席】	
	学校側	田中 久仁子	校長	
		高橋 明	事務部長	
	高木 靖	小中学部教頭		
	横山 浩明	高等部教頭		
	若原 真智	小学部主事		
	肥田 幸宗	中学部主事		
	吉野 和博	高等部主事		
	前田 教嗣	教務主任		

5 会議の概要(協議事項)

(1) 本年度の取組と来年度に向けて

- 意見1 コロナ禍を終えて、活動範囲が広がり、いろいろな場で地域と交流するなど、活力ある活動の報告であった。
- 意見2 外との交流が増えてきた。閉鎖的な活動よりも外へ出る活動が大切であることを感じた。
- 意見3 部ごとの取組が子ども一人一人のニーズを見定めており、よい。
- 意見4 大垣市の会議の中で、中学1年生の生徒が特別支援学校との交流の経験から、「特別支援学校の先生になりたい。」との発表があった。

(2) 高等部3年生の進路状況について

- 意見1 新規事業所はどのように開拓しているのか。
→ハローワークから案内してもらったり、自らハローワークで調べてきてつなが

たりすることもあった。家族の関係からつながったケースもある。

- 意見2 高1, 2年からの現場実習の積み重ねではなく、3年生になってから進路先が決まるケースが多いのか。
→今は、様々な業種で障がい者雇用が広がっている。1年生で職業理解、2年生で複数の実習先で実習し、適性を判断している。3年生の1回目の実習で進路先を決めることが多い。

(3) 「GHOPES」製品について

- 意見1 他の作業班も、GHOPESへの出品することを目指しているのか。
→今後も、これを活力に進めてきたい。
- 意見2 大変上手に作ってある。生徒のさらなる活力につなげてほしい。

(4) 学校評価アンケート実施結果について

- 意見1 スポーツ少年団では、プレイヤーズファーストではなくプレイヤーズセンターが大切で当事者を中心にするのを大切にしている。アンケートの結果から特別支援学校も同様であることを感じた。中心にいるのは子どもでその周りには保護者や教員、地域が連携していけるとよい。
- 意見2 外への発信をいろいろな方法でできるとよい。積極的に報道依頼をし、待つのではなく、こちらから発信をしていくことが大事である。
- 意見3 「特色ある」とはどのようなことか分からない。だから分からないと回答する方が多いのではないかと。年度初めの学校のスローガンのようなものを発信することが大切かもしれない。
- 意見4 「挨拶ができない」について、先生ができないなら、子どももできない。先生の影響力が強いので、先生が見本となるようにしなければならない。

(5) 指導・高評

- 意見1 去年は卒業式に参加して、卒業生の言葉に感動した。「ここまでできるようになった」という成長が見られた。今年も楽しみにしている。
- 意見2 校長先生をはじめ、管理職の先生方が毎朝車の誘導をして、子どもを出迎えてくれる。子どもも校長先生とも親近感を感じるようになってきていると思う。
- 意見3 今日の卒業式練習を見て、子どもの頑張りや教員の姿を見て、心が温まるものとなった。児童生徒と教員との信頼関係や先生方の愛情を感じた。
- 意見4 課題とされている、外への発信の仕組みを整えていけるとよい。
- 意見5 教員や親の愛情はとても感じる。しかし、社会に出るにあたって、厳しさを知る必要もあるのではないかと。高等部生徒の就職にかかわる「不採用」についても、長い目で見ればそのような経験が社会につながる上で大切であり、愛情だけでなく厳しさについても学ぶ必要があると思う。
- 意見6 地域とつながるために、「まちあるき」等、自分たちから一歩ずつ進んでいけるとよい。
- 意見7 アンケートの保護者の声に「生きやすくなった」とあったが、裏返すと社会はまだまだ「生きづらい」部分が多くあるということと、地域共生社会の実現の必要性を改めて感じた。

6 会議のまとめ

- ・コロナウィルス感染症が5類に移行し、様々な学校行事を行うことができるようになってきた。積極的に地域とつながり、情報発信していくことが共生社会につながる。
- ・子どもを中心にし、保護者、職員、地域が連携して支援していく仕組みを考える必要がある。
- ・GHOPESへの出品をきっかけに、各作業班での作業学習への意欲を高めていきたい。